

報告

◇ 2012年度 第3回役員会報告
 開催日：3月2日(土) (於連盟会議室) 出席者：役員、監査、事務局員
 <審議内容>
 ▶ 本年5月の代表者会議の日程および審議事項の確認をした。なお今年度は神学校献金推進委員会議を全国大会の日程に合わせて開催し、神学校献金(神学生奨学金献金)を推進する立場から、この会議を、より実務に即した意見交換の場としたい。また、合わせて大会参加者との交歓を通して地方連合の課題を共有する機会とする。
 ▶ 昨年総会で審議が未了であった壮年会連合規約、規約細則、事務局職員規程改正について規則改定委員提出の案について審議した。選挙管理に関する事項の規約への追加について成立を目指し今総会に提案する。
 ▶ 第48回全国壮年大会担当の福岡地方連合実行委員会からのプログラムに関する情報を説明した。今後、実行委員会へ当役員会からも陪席させていただき、意思疎通を図りながら大会準備の共有をしていく。

◇ 2013年度 第1回役員会報告
 開催日：4月13日(土) (於連盟会議室) 出席者：役員、監査、事務局員
 <審議内容>
 ▶ 本年度総会に向かって2012年度各報告と2013・14年度計画について内容の詳細審議を行った。
 ▶ 提案する議案の「連立立等神学校奨学金制度創設に伴う委託業務追加」について内容の確認を行った。また本制度に関する連盟と各神学校との覚書締結作業の進捗を確認した。連盟と各神学校との覚書は3月31日をもって締結された。よって、本年の全国壮年会連合総会において全国壮年会連合が送金業務と受給者名簿の記録管理受託を決議することによって連立立等神学校の奨学金制度の実務運営が開始されることとなる。
 ▶ 2012年度神学校献金実績は22,281,237円(目標3000万円)であった。Tシャツの売り上げ貢献額は119,500円であった。未納教会へのフォローについて早い時点で地方連合壮年會に協力を仰ぎたい。

◇ 2013年度 第1回奨学金委員会報告
 開催日：4月6日(土) (於連盟会議室) 出席者：奨学金委員、前奨学金委員長、事務局員
 ▶ 今回は2013~2014年度委員会の初めての会合で、それぞれの信仰の歩みと奨学金委員としての抱負を伺った。そしてチームとして祈り、活動していくこと「チームプレイ」が強調され、続いて委員会の各担当が決められた。
 ▶ 新たに神学部長となられた天野委員から卒業生の赴任状況を伺い、また2013年度の神学コースについては博士後期3年1名、博士前期2年12名、博士前期1年4名、4年生7名、3年生4名、選科1年1名との紹介があった。更に伊東、篠田両委員から4月3日に実施された奨学金受給者との面接について報告があり、神学生の状況報告に加えて「推薦教会や奨学金委員会との連絡を密にし、神学校や研修教会でしっかり学んでほしい」と伝えた旨報告された。
 ▶ 西南学院神学部の2013年度奨学金貸与者は20名であることを確認した。
 ▶ 東京バプテスト神学校の奨学金受給対象神学生数は3名、九州バプテスト神学校は4名であるが、申請の確認はされておらず現時点では未定である。
 ▶ 奨学金使途拡充に伴う会計科目の変更や活動計画案が協議されたほか、返還対象者の状況確認をタイムリーに行い、返還滞り者にならないように対応していくこと等が確認された。

報告

2013・14年度全国壮年会奨学金委員について、以下の通り報告いたします。

委員長	伊東 信吉 (大富教会)	
委員	鈴木 一弘 (旭川教会)	職務：広報に関する事項
委員	篠田 裕俊 (田隈教会)	職務：記録・渉外に関する事項
委員	原田 陽一 (高崎教会)	職務：返還業務に関する事項
委員	山本 長邦 (名古屋教会)	職務：会計に関する事項
委員	天野 有 (福岡バタニヤ村教会・西南学院大学神学部)	
委員	鳥飼 好男 (市川八幡教会・連盟理事会)	
事務局員*	豊永 義典 (川崎教会)	

※：主として奨学金事務を担当していた戸井田敦子が3月31日をもって退職。今後の奨学金事務は豊永義典が担当する。

日本バプテスト連盟全国壮年会連合 〒336-0017 さいたま市南区南浦和1-2-4
 事務局執務時間：月、水、金 10:00~16:00
 ☎・fax：048-886-7533 http://www.sonen.net sonen@bapren.jp
 郵便振替 00150-7-669605 「日本バプテスト連盟 全国壮年会連合事務局」

全国壮年会連合



2013年4月19日

No.76

日本バプテスト連盟全国壮年会連合
 発行人 大城戸一彦
 編集人 井伊 肇
 Topics password→sorengo

「あの少年はどこに？」(壮年として、奨学金委員としての考察)

奨学金委員長 伊東信吉 (大富教会)

齢を重ねてくると、つい些細なことが気になって仕方がありません。それはヨハネによる福音書6章9節に登場する「あの少年」のことです。大麦のパン五つと二匹の魚を持っていたあの少年の行く末については、聖書は何も語っていないのですが、だからこそ気になって仕方がありません。

イエスが集まってきた五千人以上もの群衆を、僅かなパンと魚で満たしたという物語は四つの福音書の全てに記されていますが、そのパンと魚の提供者について記しているのはヨハネによる福音書だけで、それも「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを持っている少年がいます。」と述べられているだけです。でもだからこそ、この少年のことが気になります。私自身、専門に聖書の学びをしたわけではありませんが、それだけにこの少年の事を考えると次から次へと思いが膨らんでいきます。(聖書教育での学びが印象に残っています。)

五千人の中から十分な食料を持っている人を見つけようとしていた弟子たちはすいぶん苦労していたことでしょう。その時ひとりの少年がお弟子さんのアンデレに声をかけましたのではないのでしょうか。「アンデレさん、アンデレさん、僕、五つのパンと二匹の魚を持っているよ。これでイエス様のお役に立ちますか。」少年の差し出したのは、お母さんがお弁当と作ってくれた当時の貧しい人たちが食していた大麦のパン五つと、料理された小さなさかな二匹。それを見たアンデレは「こんなに大勢の人がいるんだから、役に立つはずが無い。」と常識的に考えたに違いありません。アンデレは「けれども、こんな大勢の人では、何の役にも立たないでしょう。」とつぶやきます。

ところがどうでしょう。イエスはこの少年の差し出した大麦のパン五つと魚二匹を祝福して五千人以上の人たちに分け与え、みんなは満腹になり、さらに残ったパン屑で十二のかごがいっぱいになったと聖書に書かれています。

この聖書箇所から教えられることは、私たちが持っている才能、能力は他の人たちに比べると見劣りするかも知れませんが、それでも「イエス様、どうぞ私をお用いください。」とお応答し従っていく、その信仰の大切さなのではと考えます。イエスは幼子のような純粋な心をお喜びになる方でした。まさに五つの大麦のパンと二匹の小さな魚を差し出した少年の心には、まわりの状況を深く考慮する余裕など無く、ただ自分の持っているすべての食料を差し出すことによって他の誰かを助けることができるかもしれない、イエス様のお役に立てるかもしれないという気持ちしかなかったことでしょう。

さて、この少年の「その後」については聖書には一切記されてはおりませんが、少年は自分の差し出した大麦のパン五つと魚二匹がイエスによって用いられて役に立ったことを他の人々に語らずには居られなかったことでしょう。先ずは家に戻って、お弁当を作ってくれたお母さんにそのことを報告したことでしょう。さらにはいつも一緒に遊んでいる友達にも伝えなかったはずはありません。この少年のイエスとの出会いによってもたらされたこの奇跡の出来事が、この少年の一生を大きく左右することになったことと想像されます。この少年の興奮が、二千年たった今でも私に伝わってきます。そしてこの少年の興奮は、今やまさに私の興奮になっています。

私はいつの間にか(もう十分に)壮年と呼ばれる世代となっていますが、イエスと出会わせていただいたあの時に戻って、あの少年のように「私はイエス様にお会いしました。」と遣わされた場所で大きな声で証し、感謝と喜びをもって主に従い、神様の福音を宣べ伝えていく者とされたいと願っています。

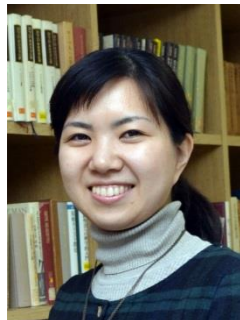
2013-2014年度の奨学金委員としての働きが始まりました。これまで、その活動の重鎮であった大城戸さんと高良さん、そして神学部を代表して加わっていた片山先生、事務局の戸井田さんが退任され、新たに西南学院大学宗教部の篠田さんと北海道地方連合で活躍されている鈴木さん、そして神学部からは私の青年時代からの友人である天野先生が加えられました。祈り心を持って返還業務にあたられている鳥飼さんや、いつもこやかに会計業務にも明るい山本さん。そして課題意識をもって委員会活動に取り組んでおられる原田さん。誠実に事務の仕事をして下さっている豊永さん。4月6日に開催された第一回奨学金委員会にお集まりいただいた委員の皆さんに、先に述べた「あの少年」を見る思いでした。委員の皆さんと共にこれまで以上にチームプレイを意識して、神様と人々に喜ばれる奉仕をしてまいりたいと思います。お祈りください。



【2013・14年度奨学金委員】 左から 鳥飼好男委員(市川八幡・理事会)、山本長邦委員(名古屋)、篠田裕俊委員(田隈)、天野有委員(福岡バタニヤ村・西南学院大学神学部) 伊東信吉委員長(大富)、原田陽一委員(高崎)、鈴木一弘委員(旭川)、大城戸一彦前委員長(西川口)

「主の働き人として」

西南学院大学神学部博士前期課程2年 石渡伴子（推薦教会：洋光台教会）



いつも私たち神学生を覚えて祈り、支えてくださりありがとうございます。

2013年度も始まり、神学部には新しい学生が入ってきました。一方、私は卒業年次になりました。残された時間を十分に用いて、学びに教会奉仕に寮生活に勤しみたいと思っております。卒業のことを思うとともに、神学部に来た時のこと、そして自分の召命のことを振り返られています。神学部に来る前、主に用いられたという思いを抱いていた私は、より具体的な導きを祈り求めていました。そのようなときに、次の御言葉が与えられました。

「あなたが呼べば主は答え あなたが叫べば「わたしはここにいる」と言われる。轡を負わすこと、指をさすこと 呪いの言葉をはくことを あなたの中から取り去るなら、飢えている人に心を配り 苦しめられている人の願いを満たすなら あなたの光は、闇の中に輝き出で あなたを包む闇は、真昼ようになる。」（イザヤ58：9-10）

アジア諸国の人々の問題は、貧困を解消すれば解決するのではなく、霊的な飢えを訴えていることを実感してきました。しかし、この日本においても、青少年たちが霊的に飢えていることの自覚もないまま、社会の価値観に翻弄されています。青少年が本来求むべきものを教会が提供できること、青少年と向き合い、一緒に考え、歩む者が教会にすることを知ってほしい。この3年間、数カ所の教会で、青少年と関わる奉仕をさせていただき、私なりの手ごたえを感じました。青少年たちは教会に無関心ではないこと、教会が積極的に関わろうとするならば、必ず青少年たちと絆を持つことができ、彼らの活躍する場を築くことができます。教会は青少年の力を必要としており、青少年も自分達の力を発揮できることを求めています。私がこのような思いを持つことができるようになったのも、そのような機会を与えてくださった教会と多くの方々のおかげです。忍耐をもって、私を支えてくださった方々に心から感謝します。そして、その期待に答え、困難な場飛び込んでいきたいと願っています。現在、私の論文は青少年の信仰育成をテーマにしています。青少年と教会が結びつくような論文に仕上げたいと思っております。更なる祈りを願います。

東京地方壮年連合の活動（一部）紹介

東京地方壮年連合会長 山田誠一（大井教会）

私たちの活動の中で大切にしていることの中に壮年連合通信の発行（年4回）と研修会（年2回）があります。3/9（土）に行われた「第17回研修会」の報告が3月末発行された壮年連合通信57号に掲載されています。とても素晴らしい報告が鈴木武史兄（花野井バプテスト教会）から寄せられましたので、その原稿（一部省略）を紹介いたします。〈写真は講演中の青野太潮教授〉

☆☆☆☆

「第17回研修会（青野太潮教授講演会）に出席して」

十字架の神学とは―教会形成にどう貢献するか～ 花野井教会 鈴木武史（すすき たけし）

今月3月を以て西南学院大学を停年で退職される青野太潮教授をお迎えして、大久保バプテスト教会で行われました。参加人員は59名で、会堂がまばいっぱいになるほどの盛況でした。

今回の講演の特徴は、青野先生が2月15日に「最初期のキリスト教思想の軌跡――イエス・パウロ・その後――」と題した1時間半の最終講義をされた時の資料をそのまま使って行なわれたことです。レジュメには、先生のこれまでの研究の経緯とご主張がまとめられていました。講演本題の「十字架の神学とは」については、発行予定の著書にある、〈エッセイ〉「十字架」と贖罪から、コピーをいただき、解説していただきました。

講演後の質疑応答では、質問者数を制限するほど盛んでした。現場からの質問として、花野井教会の平尾輝明牧師からありました。「教会の現場において、信徒が今まで信じてきた伝統的な贖罪論を否定されたと感じさせずに、十字架の逆説を語るためには具体的にどのようにしたらよいでしょうか？」これに対する青野先生のお答えは、「贖罪論と十字架の逆説の両方を並べて提示して相手に判断してもらおう。」でした。そこで上記のコピー資料の中の「十字架の逆説」についての箇所を捜してみました。すると次の文章がありました。

“「十字架」という語が用いられる時には、むしろそれは弱さ、愚かさ、つますき、律法による呪い、などとして展開されていくのです。つまり、「十字架」は直接的に救いのことからして言い表されていくのではなく、さしあたっては否定的に、悲惨な出来事として語られるのです。しかし、その愚かで弱く、つますきや呪いとしか人の目には映じない十字架の出来事が、実は逆説的に神によって肯定されており、そこにこそ真の救いがあるのだと、とくにパウロは主張するのです。” このことから青野先生が言われる「十字架の逆説」が分かり、この重要な質疑応答もおかげで理解できました。その他の方からの質疑に対する応答の中にも、教会形成につながるものがあり、良い研修会になったと思います。今回の研修会を感謝いたします。

尚、集会での席上献金（50300円）は全額、仙台北教会を中心とした東日本大震災復興支援活動のために捧げました。これからも小さな働きの中にも主と共に歩むことを喜びとしていきたいと思っています。

2013年度全国壮年会連合総会開催にかかわる件

規約細則第6条の定め（60日以上前）により表題の件を通知致します。

- 開催日時：2013年8月23日、24日（第48回全国壮年大会開催に合わせて実施）
- 開催場所：西南学院大学
- 議案：全国壮年会連合ニュースNo.77号（7月予定）発行に合わせてお知らせ致します。
- 代議員登録（規約細則第4、7条による）
 - ◇ 派遣代議員：教会・伝道所各3名まで登録
 - ◇ 登録締切日：7月23日（火）（総会期日30日前）… 参加者登録に合わせて

※規約細則第9条により壮年会員は議案を提出できます。7月23日（火）までに役員会に提出ください。

2014・15年度全国壮年会連合役員選挙にかかわる件

「日本バプテスト連盟全国壮年会連合規約」第7条に基づき、2013年度総会において以下の通り選挙を行います。つきましては立候補くださるようお願い申し上げます。

立候補締め切り：2012年7月31日（水）

立候補者は全国壮年会連合役員会事務局（選挙管理委員会関連規則が発効するまでの措置）に届け出をお願い致します。

尚、事務局は立候補者同士の公平性を期すために総会当日まで立候補者名を公表致しません。但し、候補者の方がご自身の判断でお名前を明かすことは自由と致します。

<立候補対象>

- 全国壮年会連合会長 1名
立候補者は当選後、総会にて事務局長、書記、会計各1名の役員を指名し承認を得ることとなります。
- 副会長 1名
- 監査 2名

人吉キリスト教会（南九州地方連合）壮年会の活動紹介 <取材記事>

私が入吉キリスト教会の取材に訪れたのは3月17日、例年ならまだ桜は蕾の筈ですが、この日教会の隣の敷地にある桜はもう5分咲きくらいに咲いていました。南九州地方連合の対象地域は、県にすると福岡県南部の大牟田市、熊本県、宮崎県、鹿児島県と、九州の中部から南部にかけて広範囲にわたっており、その南九州地方連合のほぼ中央部、熊本県人吉市に人吉教会はあります。教勢報告の壮年数は6名となっていますが、現在は調査時から2名減で4名、そのうち1名が長期に礼拝を欠席しておられるということで、実働人員は3名、永瀬牧師、永田さん、豊永さんの3名です（写真参照）。

永田伸継兄のことはご存知の方が多いと思いますが、壮年大会が南九州地方連合で開催された第41回大会の副実行委員長を引き受けて、積極的に準備活動をされていたのですが、大会の前年に職場で大きな事故に遭われ大怪我をされ、全国の仲間が一堂に会する大会に参加することは出来ませんでした。

しかし事故から7年、今回お聞きしたら、自動車の運転も近場ならOKというところまで回復されており、地方連合の活動にもまた積極的に参加されているそうです。寡黙ななりに、きちんと自分の役割を果たして来られ、私たちに文字通り「背中を、キリスト者壮年としての姿勢を語ってくださった永田さんが帰ってきた感じで、→∞



∞ → 嬉しい再会のひとときでした。

壮年会の例会は他の会と同じ第1主日に持たれています。永瀬牧師の話によると、所帯が小さいので壮年だけの活動の話と言うよりも、教会全体の話になることが多く、召天者記念礼拝や特別伝道集会などのイベントの時の準備や当日の担当の割振り等縁の下の力持的存在として頼りにされています。

神学校週間ではこれまで何回かカレーライス作りをやったこともあるし、アピールは永瀬牧師自身が、ご自分の神学校での経験を踏まえて、献金による神学生のサポートに留まらず、この人吉からも献身者を出したいと熱い思いを語られているようです。自分の教会の壮年メンバーが少ないこともあり、熊本・大牟田ブロック大会や南九州地方連合の壮年会総会にもみんな積極的に出かけているとのことでした。

取材した日は教会学校の時間に、全教会員対象で暗証聖句・愛唱聖句大会が行なわれ、子どもたちから青年までは覚えた聖句を思い出しながら発表し、壮年と女性会員は愛唱聖句を披露しながら証をされました。私も一緒になって前に出て短い証をさせていただきました。礼拝後は教会員の皆さんの手作りのおはぎと桜餅がふるまわれ、たいへんおいしく頂いて教会を後にしました。

取材者：全国壮年会連合事務局員 豊永義典（人吉市出身）

